

# コロナ禍の実践からみえてきた 幼小接続期の教育

静岡大学教育学部 教授 田宮 縁

---

## はじめに

2019(令和元)年 12 月、中国湖北省武漢市で原因不明の異形肺炎の集団発生が起きました。そして、2020 年 1 月 23 日には、武漢市の閉鎖が始まり、1 月 30 日、WHO は「国際的に懸念される公衆衛生上の緊急事態」と声明を発表し、2 月 11 日に、この感染症を「COVID-19 (coronavirus disease 2019)」と命名、3 月 11 日には、パンデミックを宣言しました。感染は世界各国に拡大し、1 年後の現在(2021 年 1 月)でも終息のめどは立っていません。

COVID-19 という急性的危機により、今まで通りに実践できないもどかしさを現場では感じたことでしょう。しかし、保育や教育において今一度立ち止まり、新たな保育・教育の在り方を考えさせてくれる機会になったようにも思います。私自身、現場を訪問させていただく中で、今まで以上に子どもの発達を第一に考え、模索する多くの先生方に出会うことができました。拙稿では、コロナ禍での子どもたちの実態から出発し、幼児教育と小学校教育のカリキュラムの特徴、1 年間の成長の姿など具体的な姿から幼小接続についてせまってみたいと思います。

## 1. コロナ禍での園生活・学校生活

2020 年。私は、大学時代から「学校は社会の縮図だ」と思いながら過ごしてきましたが、今年ほど、学校が社会の影響を受けた年はないと思います。実は、二度にわたる休園・休校を経た、再開後の子どもたちの姿をととても心配していました。このパラグラフでは、再開後の 5 歳児と 1 年生子どもたちの生活の様子を具体的にお伝えします。

## 子どもたちは大きくなりたがっている

6月12日、富士市立松野こども園を訪問。コロナ禍で保育者はどのような配慮をしているのか、その中で子どもたちはどのように生活しているのかと、若干不安な気持ちを抱えながらも、先生方や子どもたちからいろいろなことを学びたいと思い足を運びました。

COVID-19への対策については、必要な物品が入手困難であったため、園では、保育者が身の回りにある物を活用しながら保育室等の環境構成に努めている様子が見受けられました。例えば、食事の際の飛沫飛散防止のために、アクリル板の代わりにクリアファイルやラミネートを使用していました。支えは牛乳パック。先生や友達と食べることを楽しむと同時に、食べ物への興味や関心をもつという大切な体験を損ねないような保育者の工夫が見られます。また、現在では、飛沫飛



散防止のアクリル板も数多く市販されていますが、保育者が製作した飛散防止グッズを見せることは、身近にあるものも工夫次第ではいろいろなものに活用できるということを知らせ、子どもの物への関心を高めることにつながります。



園庭では、5歳児の女児2人が園内の花を使って色水で遊び出すと、徐々に他児が集まってきました。そして、一人が「♪にわのシャベルが」と歌い出すと、「一日ぬれて雨があがってくしゃみをひとつくもがながれて光がさしてみあげてみればラララ〜」(にじ 作詞 新沢としひこ/作曲 中川ひろたか)と、みんなが声を合わせて歌い出したのです。その当時の社会の雰囲気を思うと、

歌っている子どもたちの姿に感傷的になったように記憶しています。歌い終わった後で、一人の子が「お別れの会に歌うんだ」と言いました。子どもは前を向いて歩いている、1年後の自分をイメージしていると気付かされました。こども園を卒園し、小学校に入学する自分を。

## 子どもの適応能力はすごい

5月25日から8月4日まで焼津市の公立小学校3校に訪問の機会をいただきました。訪問回数は各校9回。毎回、変容していく子どもたちの姿、そして、学習内容の発達段階に応じた深化を楽しみに足を運ばせていただきました。ここでは、主に生活科を中心に学校生活について述べたいと思います。

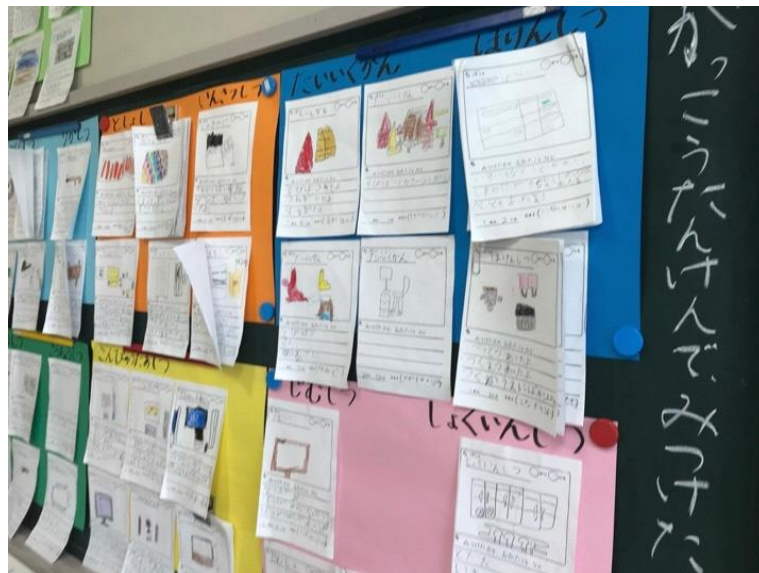


5月25日(月)、教室のベランダに出ると、プランターの中にはアサガオの双葉が見事に芽を出していました。先週末に蒔いた種が休日の間に発芽し、双葉にまで生長したとのことでした。少し、遅い時期の種まきだったかもしれませんが、季節は進んでいるのです。

子どもたちも、学校再開から1週間程度にもかかわらず、4月から生活しているかのように学校になじんでいました。「なじんでいる」という言葉がぴったり。違和感がなかったのです。不思議なことに3校ともです。

学校に「なじんでいる」子どもたちの背景には何があるのかを知りたくなり、学校の先生に聞いてみました。先生は少し考えてから、「もしかしたら、臨時休校中の学校預かりかもしれない。先生方の負担も大きかったと思いますが、3分の1くらいの子どもの預かっていたので、その子たちは、トイレの場所など生活に必要な場所や時間の流れも知っています。校長先生をはじめ先生方とは、毎日かかわっていました。その子たちが、他の子の手本となったり、知らないところを教えてあげたりしていたからかもしれません」とのことでした。つまり、学校生活のリーダー役になる子の存在が大きかったということです。ちょっと先をいく同年代というのも良かったのかもしれません。他の地域の学校の校長先生は、「今年の子どもたちが、予想以上にスムーズに学校生活に入れたのは、分散登校の実施によるものかもしれない。担任が少人数の子どもたちとじっくりとかかわることが大切だとわかった」と語られていました。

また、教室の掲示物から、子どもの思いや季節に合わせた合科的な指導も取り取り入れられていたことが理解できます。このような授業の展開が幼児教育から小学校教育への移行をスムーズにさせていると思います。7月20日(月)の撮影の写真から紹介します。



掲示物から、生活科の「がっこうたんけん」を中心に体育や図画工作の授業が展開されていることがわかりました。「がっこうたんけん」とは、学校の施設の様子、先生など学校生活を支えてくれる人々や友達のことがわかり、安心して遊びや生活ができることをめざし、どちらの学校でも入学当初の学習活動として実施されています。

「たんけん」ということばは、子どもたちの遊び心をくすぐり、やる気を喚起します。子どもにとっては遊び的な学習活動のなかに、季節感を取り入れ、ここでは、雨の日の校庭での自然や音、形への気づきを促しています。また、雨の日の探検後、子どもの気づきを図画工作の時間で扱ったというこが子どもの作品から想像できました。さらに、担任の先生は、「みずあそびのめあて」と掲示してあります。わきに置かれていたさまざまな水鉄砲の容器からも「みずあそび」という生活科の時間の楽しい様子が目に浮かんできました。

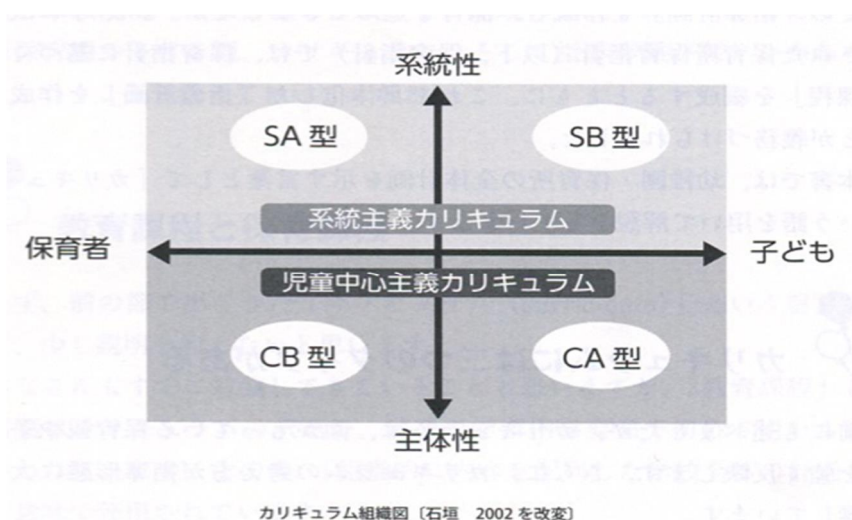
子どもたちが学校に「なじんでいる」背景には、コロナ禍での副産物とともに、担任の先生の子どもたちへの思いや発達段階に応じたさまざまな工夫があったのです。

2ヶ月強の訪問の中で、アサガオは発芽し、多くの花を咲かせ、種を実らせました。アサガオの生長に子どもの成長を重ねることができました。

## 2. 幼児教育と小学校教育のカリキュラム

幼児教育と小学校教育のカリキュラムの視点から「接続」を考えてみたいと思います。

幼稚園教育要領等に示されている「環境を通して行う教育」から小学校教育への移行について、以下「保育のカリキュラムの組織図」を用いて考えてみます。



縦軸はカリキュラムのタイプの軸、横軸は指導形態における主体の方向性の軸です。

まずは、縦軸を見てください。下方の「主体性」と書かれているエリアが「児童中心主義カリキュラム(C型)」、上方の「系統性」と書かれているエリアが「系統主義カリキュラム(S型)」です。

児童中心主義カリキュラムは、子どもの経験や主体性(C型)を中心に置き編成していこうとするカリキュラム、つまり、子どもの興味や関心を大切にしていこうとするカリキュラムなのです。一方、系統主義カリキュラムは、子どもの活動の系統性(S型)を重視していこうとするカリキュラムで、小学校の教科教育を考えてみるとわかりやすいと思います。教科教育は、子どもの発達段階に応じて内容が系統的に配列されています。教科教育だけでなく、遊びや活動の中にも系統性はあります。例えば、鬼ごっこは「逃げる・捕まえる」という関係が基本にあります。単純な鬼ごっこから「ケイドロ」のようなルールが複雑な鬼ごっこまでさまざまな鬼ごっこがあります。

横軸を見てください。横軸は指導形態における主体の方向性の軸です。「児童中心主義カリキュラム」でも、子どもの主体性を最大限に重視しようとするタイプ(CA型)と子どもの主体性をゆるやかに考えていこう、子どもの興味や関心とともに保育者の意図も重視していこうとするタイプ(CB型)があります。環境を通して行う教育は、この図の中では「CB型」に位置します。

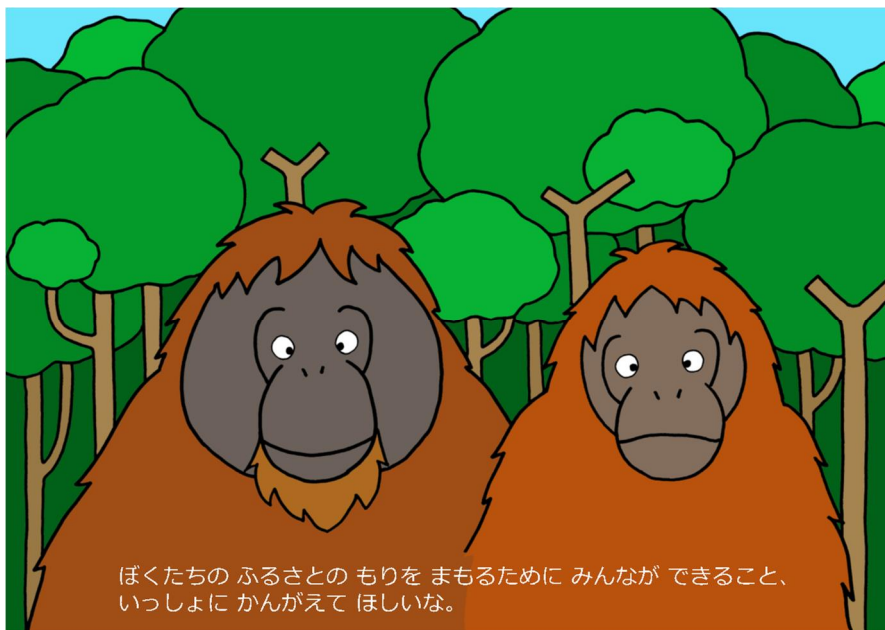
「系統主義カリキュラム」は、子どもの発達段階と保育活動の系統性をクロスさせてプランを立てて計画的に進めようとするものです。系統主義カリキュラムの厳しいタイプとして「SA型」がありますが、目の前の子どもの興味や関心とは無関係に画一的な教え込みに傾きやすく、子どもは受け身に立たされるといった傾向があります。一方、「SB型」は指導形態の主体を子どもに置いて、知識や技術の伝達の系統性よりも子どもの発達や活動の系統性を尊重します。つまり「SB型」は、子ども一人ひとりの発達の系統性を踏まえながら、活動の系統性、伝統や文化も尊重し、活動を深めていこうとするカリキュラムなのです。特に小学校の生活科は、この「SB型」に近いと考えてよいでしょう。

実際の保育現場では、「CB型」のカリキュラムを基本としていますが、栽培活動、園外保育、季節の行事や歌、絵本の読み聞かせなどの場合、「SB型」の考え方をういてカリキュラムを編成しています。また、年齢が上がっていくにしたがって、「SB型」の考え方をういたカリキュラムも少しずつ増え、小学校へと自然に移行していくのではないのでしょうか。

### 3. 「一次的事物」から「二次的事物」への移行期

～必要感に基づく遊びや生活が「二次的事物」を育む

2021年2月「SDGs デジタル絵本『どうぶつと いっしょに ちきゅうの みらいを かんがえよう ～もりは かんたんには かいふく しないんだ～』(5歳児～)」を静岡市立日本平動物園と連携し制作しました。内容は、オランウータンが絶滅危惧種になっていることには、パーム油や紙を使う人間の生活が深くかかっている、「パーム油などの原料となる森林を人間が壊しているの、その森林に棲むオランウータンが非常に困っている」という内容の話で、それに対してみんなのできることを考えてみよう、オランウータンが語りかける構成となっています。



制作の過程で、2020年12月、幼稚園2園(5歳児)と小学校1校(1年生)にご協力をいただき、読み聞かせ後、子どもたちがどのようなことを考えたのかを把握するために話し合いの時間を設けていただきました。そこでわかったことは、5歳児と1年生では、日常生活との関連づけに差です。

1年生は、自分たちの生活と関連づける発言が多数ありました。例えば、「ハンドソープはワンプッシュだよね」、「紙は使うだけ切る」、「お母さんは、シャンプーを買うときに選んでいる(購入時に、原材料を確認している)」というようなことです。また、隣に座っている子ども同士で、消費生活に関する(RSPO 認証やフェアトレードにつながるような)会話をしていました。

一方、5歳児は、1年生の生活に関連づけるような話し合いにはいたりませんでした。しかし、片付けの時間には、ゴミ箱の中を見て、紙をリサイクルの方へ移す子、「オランウータンさんが困っているから、紙はこっちに」と言いながらゴミの分別をする子などの姿が見られたと担任の

記録にはありました。この記録から、この絵本をきっかけに、5歳児なりにオランウータンの状況を捉え、さらに行動変容を促されたということ把握することができました。

この12月の実践3ヶ月弱。3月上旬には、次のような実践記録が幼稚園から送られてきました。要約を以下に記します。

\*\*\*\*\*

「SDGs デジタル絵本」をきっかけに、いろいろな場面で「エコ」、「リサイクル」、「もったいない」などの言葉が増えました。そこで、保育者が2種類の行動パターン(AとB)を演じて見せ、どちらがエコ(地球に優しい行動)であるか、子どもたちがAとBのエリアに分かれるクイズを3つ行いました。

> 買い物の場面 A) エコバッグ持参の姿 B) レジ袋を購入する姿

> ジュースを飲む場面

A) 紙コップ+紙ストロー B) プラスチックコップ+プラスチックストロー

> トイレtpペーパー A) パルプ100% B) 再生紙

どれも、子どもなりにAエリア、またはBエリアに移動した根拠を述べ、活発な議論が展開されていました。ここでは紙面の関係上、「ジュースを飲む場面」についてのみ、担任の大石美加先生(富士市立田子浦幼稚園)が書かれたエピソードを引用します。

「次は少し難しいよ。よく考えてね。」と言い、紙コップの飲み物を紙ストローで飲む姿、プラスチックコップの飲み物をプラスチックストローで飲む姿を見せる。「洗えば何回も使えるからプラスチックの方がエコだね。」と自信たっぷりで動く。当然エコなのは紙ストローだと思っていたので、子どもの捉え方を見て焦り、「何でできているかではなく、捨てる時のことを考えてもらわないか」と思い、「あっ、割れちゃった。捨てよう。」「こっちも汚れちゃったから捨てよう。」と演技を進めていった。「あっ、じゃあやっぱりこっちかな。」と紙の方に動く子たちもいる。最後までプラスチックの方にいたS2児に話を聞くと、「紙は汚れてしまったらそのまま捨てるだけだけど、プラスチックはプラごみとしてリサイクルできるから。」と答える。確かにこれまでプラごみをリサイクルできるものとして集めてきた。S2児の言うことも最もだと思い、「どっちも正解だね。」と受け止めた。

翌日、「昨日のエコクイズ楽しかった」「またやってほしい！」と子どもたちから声が上がりました。すると、A児が「僕、エコ生活始めたんだ」と言い出しました。私が「えっ、本当？何を始めたの？」と聞くと、A児「ご飯を残さないで食べる！」と得意そうに応えました。

\*\*\*\*\*



たった3ヶ月の間に、その子なりの根拠に基づいた発言をするようになったことを記録から確認することができました。入学前のこのような経験は、子どもたちの自信につながるものです。

発達心理学者の岡本夏木さんは、この時期のことばの発達を「一次のことば」から「二次のことば」への移行期としています。身近な人との相互交渉するための生活言語（一次のことば）に加えて、時間空間を隔てた不特定多数に伝える言語（二次のことば）を習得していくのです。つまり、一対一から一対多へのコミュニケーションのスタイルの発話様式を習得し、学校文化にゆっくりとなじんでいきます。

まずは、信頼関係や実体験に基づいた一対一での「一次のことば」の充実が不可欠で、その上に「二次のことば」が出現します。また、自分の思っていること、考えていることを伝えたいという欲求や必要感が「二次のことば」の出現には不可欠です。つまり、友達と共有できる感動体験が必要なのです。

SDGs デジタル絵本との出会いをきっかけにエコクイズを提案するここまでは、保育者が主導した活動だったかもしれません。エコクイズは主導権が保育者から子どもに移り、子ども自身の遊びへと変化しているのです。SDGs デジタル絵本でのオランウータンの問いかけには、正解はありません。オープンエンドで子どもだけでなく、大人の生き方を問うものとなっています。保育者自身の戸惑いや気づきもエピソードに書かれています。

実は、社会生活の中では、自明のこととして何も考えずに行っていることがたくさんあるのです。分別したプラスチックゴミはどのように処理されているのでしょうか……。素朴な疑問が社会の本質を見抜くきっかけになることもあるのではないのでしょうか。子どもの発言から、大人が学び直すこともたくさんあるように思います。

このような状況が、子ども自身が課題を自分ごととして捉え、自分の生活を振り返り、その子なりの根拠に基づいた発言が可能となったのではないかと私は考えています。つまり、子どもも大人も本気になる状況を共に創り出せるのが、5歳児後期の子どもの成長・発達に大きく関わっているのです。子どもの実態や家庭の状況、園のおかれている環境により、子どもの切実感はさまざまです。単に子ども理解ということだけでなく、保育者自身の生き方も問われているのかもしれないね。

## 4. ならかな接続を可能にする実体験

園の先生方は、卒園した子どもたちの小学校の授業を参観する機会もあることと思います。さて、何を観るのか。卒園児の成長は当然ですね。少し視点を変えて、教育内容を学ぶ機会ととらえてみるのもいいかもしれません。

前述の小学校への訪問時の算数の授業で私が学んだことを述べたいと思います。まずは、夏休み頃までの算数の単元目標や(時間数)をご覧ください。



\*\*\*\*\*

### ①10までのかず(10)

いち、に、さん、し、ご、ろく、しち、はち、く、じゅう、れい

### ②いくつといくつ(4)★

新出用語や記号はなく、数の分解や補数について指導する。

### ③あわせていくつ ふえるといくつ(14)★

しき、たす・+、=・たしざん

### ④のこりはいくつ ちがいはいくつ(12)

しき、たす・+、-・たしざん

### ⑤なんばんめかな(2)★

新出用語や記号はなく、順序や位置の表し方について指導する。

\*\*\*\*\*

さらに、内容は以下の通りです。(①は割愛します。)

\*\*\*\*\*

### ②いくつといくつ(4)

1つの数をほかの数と関係づけてみる

「玉落とし器」を使用 5と6～10の構成を理解

③あわせていくつ ふえるといくつ(14)★

(合併の場面)「あわせて」、「ぜんぶで」

(増加の場面)「ふえると」

\* 合併イメージをつかませる \* 一般化へつなげる

\* 加法の具体的場面のイメージ \* 「合併」と「増加」の場面の違い

\* 加法の具体的場面を絵に表す \* 問題を作る

④のこりはいくつ ちがいはいくつ(12)

(求残の場合)「のこり」 (求差の場合)「ちがい」

⑤なんばんめかな(2)★

集合数と順序数の関連 「前から4人」、「前から4人目」

左右、前後、上下などの言葉と順序数を使ってもものの位置を示す

平面の位置の表し方

\*\*\*\*\*

出典:『教師用指導書 朱書編 みんなとまなぶしょうがっこう さんすう 1ねん上』学校図書

幼児期における数量に関して、ペットボトルを使ったボーリングの遊びを例に考えてみましょう。ピンの重さを確保するためにペットボトルに入れたさまざまな量の水やビー玉、小豆を入れます。どのくらいの重さが一番楽しく遊べるかを子どもたちは試します。遊びのなかでは、「あと〇本で全部倒れるよ」といった会話をするでしょう。このように子どもは小学校でフォーマルな教育を受ける前に、日常生活のなかで基礎的な概念を習得していきます。小学校における数や記号を用いたフォーマルな学習としての算数に対して、その基礎となる概念の習得はインフォーマル算数と呼ばれていますが、これは小学校へ入学後に算数の授業での学習を支える基盤となるということが明らかになってきています。

幼児期は、直感に基づいて思考する段階から、具体物の助けがあれば客観的に思考できる段階への移行期であり、領域「環境」の内容や内容の取り扱いで、「日常生活の中で」ということが強調されている理由はそこにあります。

1年生の授業参観で幼児教育の課題だと思ったことをいくつか挙げておきます。まず、5までの概念の形成です。数字は書けても、5までの計数がおぼつかない子どもも見受けられました。指を使って数えるのはよいと思いますが、両手を使って5以上の数を数えるときに、片方の手の1から5を数えた後で、もう片方の手に移り6から数えるという感じの子どもも複数いまし

た。「日常生活の中で」5以下の初歩的な数の合成と分解の機会を設けていくことが肝要でしょう。

また、算数は、数の概念だけでなく、ことばを聞いてその場面をイメージできることが大切です。上記の教師用指導書にもあるとおり、「合併イメージ」、「加法の具体的場面のイメージ」、「『合併』と『増加』の場面の違い」などです。単に、算数は記号を使った(「 $\bigcirc + \bigcirc = \bigcirc$ 」)計算ではないということを保育者は心しておくことが大切なのではないでしょうか。「日常生活の中で」、いかに「あわせて」、「ぜんぶで」、「ふえると」、「のこり」、「ちがい」などを用いた場面を保育者が意識できるかが重要です。

さらに、集合数と順序数も早いスピードで学習が進みます。順序数の概念は体験に基づいて学ことが多いからでしょう。小学校でも実際に、1列に並んで、体験を通しての学習を進めていました。並んで待っている場面で、保育者が「 $\bigcirc\bigcirc$ ちゃんは、 $\bigcirc$ 番目だね」、「あと $\bigcirc$ 人で、 $\bigcirc\bigcirc$ ちゃんの番だね」と意識して声を掛ければ、待っている時間も学びの時間になるのではないのでしょうか。このようなことは、幼児教育で行ってきているという前提のもとで、学習が進むということを念頭に置いておく必要があります。また、わかりやすさを保証する観点から、たなに写真やラベルを貼ることは大切です。しかし、必要に応じて何も示していない棚を設け、「上から $\bigcirc$ 番目に入れておいて」などということばを使いながら体験する機会も必要なのかもしれないですね。

## 文献・資料

岡本夏木(1984) ことばと発達 岩波新書

田宮縁(2017) 体験する・調べる・考える領域「環境」 萌文書林

吉田明史・田宮縁(編)(2018) 保育者が身につけておきたい数学 萌文書林

SDGs デジタル絵本は、日本平動物園ホームページ内「日本平動物園学習プログラム」からダウンロードできます。[https://www.nhdzoo.jp/learning\\_program/index.html](https://www.nhdzoo.jp/learning_program/index.html)

## 謝辞

保育・授業参観の機会、事例提供をいただきました学校園にあらためて感謝申し上げます。